

新島先生のホームステイ生活——フィリップス・アカデミーからアーモスト大学へ

——「隣人愛」を考える（８）：新島先生の受けた隣人愛（５）

副校長 竹山 幸男

6月が始まり3週間。京都も先週には梅雨に入り、雨の日が多い季節に入りました。先日、「今コロナはどこにいるのか」というタイトルに引かれて手にした週刊誌を見ると、巻頭カラー特集として、目で見える「雨のことば辞典」として紹介、17のいろいろな雨の降り方の紹介が写真とともにありました。霖雨（りんう）、雨濯（うたく）、小糠雨（こぬかあめ）、驟雨（しゅうう）、片時雨（かたしぐれ）、翠雨（すいう）、篠突く雨（しのつくあめ）、簷雨（えんう）、銀竹（ぎんちく）、玉水（たまみず）、牛脊雨（ぎゅうせきう）、催花雨（さいかう）、秧針の雨（おうしんのあめ）、・・・・・・・・。確かに雨の降り方も、毎日いろいろあり、その雨を見て感じることも違うのですが、「雨」ひとつにしても、日本語にはこんなにいろいろな表現があることに驚きを感じました。春から夏に向けて、学校のキャンパス内外の青々とした木々の緑が濃くなっていて、その緑の青葉を洗うように鮮やかに映し出す雨のことを「翠雨（すいう）」と呼ぶそうですが、私の感じた梅雨の雨はまさにその「翠雨」であり、雨上がりの透き通るような高い空をもたらず雨を「霽雨（せいう）」と呼ぶようですが、比叡山を背にした雨上がりの風景は、この季節、その様子を表している言葉であると思いました。聖書の中にも、特にパレスチナ地方は乾燥地帯であったため「恵みの雨」という表現が見られ、神様からの祝福をいろいろな意味で現わしていると言われます。梅雨入りして雨の日が多くなっている時期、皆さんのお住まいの地域で見られる「雨」はどの表現がふさわしいでしょうか。その自然の佇まいは、どのようなものでしょうか。



「翠雨（すいう）」
青葉を濡らして降る雨。雨に洗われた葉には、すがすがしい輝きがもどる。

6月第3週まで続けられてきた、学年をグループに分けて分散させたかたちでの登校日ですが、この間2週間の公表されている感染症の感染状況については、関西、東海地方も含めて比較的落ち着いた状況が見られますので、登校日の日数、時間を拡大するかたちで設定をいたします。現在のところ、通勤通学時間帯の感染リスクを引き続き避けるために、6月第4週目については、9時45分登校、15時15分下校の体制で全学年、クラス単位での毎日の登校日の設定を考えております。翌週（6月29日～）については、感染症の感染状況が落ち着いた状況であればそれを継続し、感染拡大傾向が生じていると学校として判断した場合には、学年ごとの隔日登校日を設定する予定です。（6月29日～の予定につきましては、6月26日の学校HPで発表予定です）

なお、7月初旬に予定されていた期末テストは行わないかたちで、「児童生徒の各学年の課程の修了又は卒業の認定等に当たって弾力的に対処し、その進級、進学等に不利益が生じないように配慮する」（2月28日付文科省）という趣旨にのっとり対応した2019年度3学期の本校での扱いと同様に、生徒の皆さんの不利益にならないかたちで、これまでの1学期の学びをふまえながら1学期の締めくくりを行えるように対応したいと考えております。6月のはじめより、体調面、その他さまざまな事情で登校することができなかった生徒の皆さんもおられますが、6月の第4週に向けても、「学習ポータルサイト」を用いた学びを基本に据えて、各教科の学びの内容、生徒の皆さんとのやり取りを継続いたしますので、これまでに引き続き、しっかりと取り組んでいただきますようお願いいたします。特に、今年の1年生の皆さんは、100年に一度というような感染症の状況がありますので、まだまだいろいろと学校の様子がわからないことも多いかと思います。生徒の皆さんからの質問、相談については、教科の内容であれば教科の先生へ、学校についての相談であれば担任の先生へご遠慮なくご連絡ください。これまでもお知らせしている通り、これまでの3か月間と直近1週間の日本の状況と対応、海外の状況と対応、そして、医療関係の専門家の方々の提言など、さまざまな状況を総合的に考慮すると、感染状況が比較的落ち着いているとはいえ、感染症の今後の状況については、まだまだ予測が難しい状況が続くものと思われます。同志社中学校では、中学生という発達段階での健康面への配慮や、京阪神はじめ近畿圏、ならびに愛知、岐阜などからも新幹線通学で通っておられる生徒の皆さんも多くおられことも考慮しつつ、生徒のいのちと健康を守ることを最優先にしながら、学校としての対応を慎重に検討しております。今後の感染状況の推移（緊急事態宣言解除による緩み、第2波への警戒など）にもよりますが、最新の状況を反映したかたちで週ごとに登校日の設定を考えていきたいと考えておりますので、ご理解とご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

第11週目（6月22日～29日）は、これまでの取り組みに引き続き、動画を用いた課題の提示、提出、メールでの質問を継続しますので、生徒の皆さんも取り組みを続けてください。6月22日からの1週間については、登校日に登校ができない生徒の皆さんを対象に、教科によってはzoomを用いての学び面談がありますので、予定については、本日ご案内の面談予定表をご覧ください。

なお、生徒の皆さんに夏休みに取り組んでいただく自由研究に向けたオリエンテーション、準備も今進められています。1年生の皆さんは、取り組もうと考えている自由研究のテーマについての登録期間をほぼ終わられていることかと思います。テーマについて悩んでいたたりして、まだ登録をされていない方がありましたら、担任の先生または教務部の自由研究担当の先生にご相談ください。12日（金）から始められていた2回目の自由研究の面談も、1年生の皆さんが積極的に参加して下さり、充実した時となりました。面談に参加できなかった皆さんとも、登校日の日に個別に面談をさせていただきました。実際の取り組みに向けて、さらにテーマの問いを深め、どんなかたちで取り組みまとめるかについて、入学時にお渡しした「きささげ」や5月

30日の学習ポータルサイトを見ながら、夏休みの取り組みに向けてイメージをふくらませておいてください。図書館の先生から紹介された本についても、見つからなかったりわからなかったりする場合には、引き続きメールまたは登校日に図書館の先生にお尋ねください。2・3年生に皆さんに対しては、登録方法、その他のオリエンテーションについては、教務部の自由研究担当の先生から動画にてすでに皆さんに案内しておりますのでご確認ください。登録をすませた今後の予定については、6月中旬に教務部の先生から連絡がありますので、しばらくお待ちください。

日ごろの担任の先生からの連絡、面談については、その都度レスポンス（応答）していただき、皆さんの日頃の様子などを知らせてください。健康観察については、引き続き保健室の先生あてご提出ください。特に、来週も登校日が継続しますので、健康観察をしっかりとしていただき連絡をよろしくお願いいたします。第11週目の詳細については、別途ホームページ上の教務部より「第11週目のお知らせ」または学習ポータルサイト上の生徒ページ・生徒伝達に「第11週目のお知らせ」をご覧ください。機器（iPad）やアプリの使い方不明な点があれば、「学習ポータルサイト」（→[生徒ページ]→[在宅学習サポート]）にアドバイスや解決方法を掲載しています。また、「2020年度版ICT活用・情報倫理ハンドブック」（同志社中学校）の1～28ページに、課題提出で用いているロイロノート、zoomの利用方法を含め、iPadでの学習に際してのさまざまな活用ガイドが掲載されていますので、取り組みの際には、引き続き参照するようにしてください。

新入生の皆さんにとっては、特別な状況の中での2か月半が経過したところですので、皆さんの中で、教科の内容、学校のことなどでわからないことやご質問がある場合には、教科・担任の先生へ、また、機器の操作のことなどでわからないことがある場合は、ICT機器利用のヘルプデスクまでご遠慮なくご連絡ください。生徒、保護者の皆さんに対しての、学校の教育相談も随時受け付けていますので、校務センターまでご連絡くだされば、担当者から連絡させていただきますのでよろしくお願いいたします。

さて、先週は、新島先生のフィリップス・アカデミー在学時代の英文の手紙から、日々の留学生活の中で、実際に体験した「祈り」への応答、身近な人や見ず知らずの街で出会った人たちから受けた「隣人愛」、神様の導き、摂理（Providence）について、学ぶことができました。今週は、いよいよフィリップス・アカデミーを離れて、アーモスト大学に入学されるころの英文の手紙から、今の時代にも通じるような内容について、いくつかのことを皆さんと考えていきましょう。

まず、最初に新島先生の最初のホームステイ先からの別れということについて、見ていきましょう。皆さんの中には、思い出に残るホームステイの経験はありますか。

3月初旬、アメリカ、カナダにターム留学に行っていた中学3年生の生徒の皆さんが、コロナ感染症の入国、出国制限の直前に、神様の見守りのうちに無事帰国されました。数か月にわたるターム留学なのですが、最初のうちは言葉も通じにくく、また、生活習慣にも慣れないままいろいろと戸惑うことも多かったようですが、留学先の学校生活が進むにつれて、ホームステイでの生活も慣れてきて、家族の一員としての生活が体験として得られ、一回りも二回りも成長して帰ってきた生徒たちでした。中学生の成長と適応能力は目を見張るものがある、ホームステイ生活が充実していればいるほど、その別れ際は涙を流しながら再びの再会を願って、というシーンになるのは、今も150年前の新島先生の時代も変わらないようです。それでは、早速新島先生のケースを見てみたいと思います。

1年半のフィリップス・アカデミーでの学びとヒドゥン家でのホームステイ生活を終えるにあたり、ホームステイのホストマザーであったヒドゥンさんからハーディー夫人に次のような手紙が届けられています。（1867年7月・新島襄全集10巻76ページ）

『奥様のおかげで、彼（新島先生）はアンドーバーにいました間、非常に快適に暮らしてきました。彼が学問の面でも人物の面でも示した進歩をご覧になって、奥様も必ずや魂の中に報いを受けられたことと存じます。彼は疑いもなく非凡な能力の持ち主であり、彼のなすことはすべて、神の栄光のためであるということのゆえに、彼の能力がまぶしいほどに光っていることは明白でございます。最初の時から私は、彼の影響力が私の歩む道に及んでくることは特権であると感じて参りました。その影響力はともすれば忘れやすい私の心をおさえてくれる護り札のようなものであり、このためにも私は彼が私たちの許から去っていかなくてはならないことに深く悲しむものでございます。彼のおかげで私たちは、キリストにあって私たちがいかに一体であるか、人間家族そのものであるか、ということが本当にわかることになりました。奥様、神様はそこをご摂理を通して、この天国をめざす放浪者をあなたの庇護の許におこうとして手段とお心とをお備えになったのだと思います。あなたはこの世がそれに値しないほどのダイヤモンドをお見つけになったのです。お心の中には、それ自体が報いであるようなご満足が

満ち溢れることと存じます。ジョセフはどこに行っても光るでありましょう。土地が変わってアーモストに行けば、それが彼のために役立つことと思います。・・・』

ホストマザーのヒドゥンさんから、1年半の新島先生のフィリップス・アカデミーでの学びとホームステイにおいて、勉学においても、人格形成の面においても、とても成長された様子が手に取るように報告されています。そして、前回のヒドゥンさんのおばさんの祈りや主イエスとの出会いに見られるよう



現在のミス・ヒドゥン旧宅（アンドーバー）
ここにホームステイした新島先生は、ヒドゥンさんや同居人のフリント牧師夫婦からたくさんの恩恵と影響を受けた

なできごとなどを通して、ヒドゥンさんのキリスト教の信仰も高められた経験が語られていると思います。アーモスト大学進学に際しての別れが近づくにつれて、とても残念で寂しく思い、また、新島先生のことを「ダイヤモンド」「どこに行っても光る存在」として、留学わずか1年半にもかかわらず、周りの人を惹きつける新島先生の魅力についても伝わってきます。アーモスト大学に入学してからも、折にふれてアンドーバーでのホームステイ生活のことを懐かしく思っていることを見るにつけ、現代の私たちが経験するような、充実したホームステイ体験の後の、ホストファミリーとの感動的な涙の別れと新島先生の目を見張るような留学経験による成長が新島先生にも見られたものと思います。

次に、新島先生はどのようにして名門高校（アメリカ最古のボーディングスクールの1つで、ブッシュ大統領親子も卒業生）であるフィリップス・アカデミーから、名門大学であるアーモスト大学に行くことができたのでしょうか。フィリップス・アカデミーを卒業して、アーモスト大学に入学されるときに、大学入学許可の決め手になるのは、学費が支払えるかということと、推薦状であることは、今も150年前の昔も変わらなかったようです。新島先生の歩んだコースは、今も実はアメリカの学生にとっては理想のエリートコースで、今も一握りの学生しか歩むことができないところを、日本人で初めて歩むことになったことは特筆すべきことだと思います。1つ目の大学の学費などの保証人については、アーモスト大学進学を新島先生に勧めたハーディーさんであったことはよく知られていることです。2つめの推薦状については、ハーディーさんがヒドゥン家に新島先生と一緒にいられたプリント先生に依頼をされました。プリント先生から、アーモスト大学のシーリー先生にあてた推薦状に、新島先生のフィリップス・アカデミー時代のことが書かれています。（新島襄全集第10巻、78～79ページより要約）



イーフレ임・フリント牧師

・彼（新島先生）は、約2年間同じ家に住まい、フィリップス・アカデミーに通いながら、妻とともに聖書、綴り字法、英文法、算数、代数学、幾何学などを一生懸命教えました。数学が得意で、算数、代数学、幾何学（2巻）をマスターした。さらに、三角法と測量術を学ぶことを熱望している。また、生理学、化学も学び、光学の実験も喜んでしたいと考えている。英語の辞書を使いすぎて、目の調子を悪くしているので、ギリシャ語は後から学ぶ方がよいと思う。聖書の学びに関しては、人一倍忠実かつ熱心で、魂を養い、神の御言葉に没頭していました。新しい聖書の聖句の意味が心にひらめき、聖書の意味の理解もとても早いものでした。



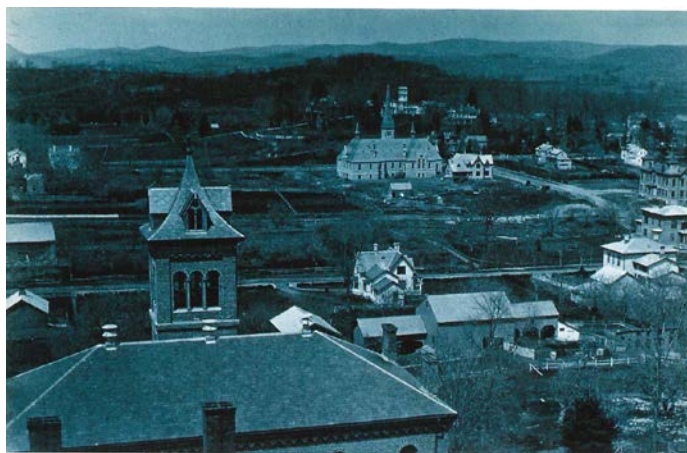
フィリップス・アカデミー時代の新島襄

・彼（新島先生）は品行において、一人の紳士です。これまでに一度たりとも、彼が粗野であったという覚えはありません。礼儀の感覚において、とても美しいものがあります。…彼の信仰上の進歩も注目すべきものがありました。彼はアンドーバーに来るまでに回心していたと

思う。真理が彼の心に届くとすぐに、それを受け入れ、義務を忠実にひるむことなく果たしている。彼は密室の祈りに忠実です。クリスチ안의交わりも愛している。彼は謙遜で目立ちたがりませんから、真価がすぐには現われません。しかし、彼は最も高貴な人間の一人であり、完全な信頼を置くに値します。・・英会話はもう少し努力が必要で、運動については消極的な面があります。

・私は過去、いろいろな生徒を教えて来ましたが、この生徒に対するほどの興味は他の誰にも抱いたことがありませんでした。私はあなたがしばらくの間、彼の教育を見てくださることを嬉しく思います。

今から150年前、今とは想像もできないような環境の変化と状況の中で、日本人で初めての留学生活、ホームステイを終えて、アーモスト大学で学ぼうとした新島先生。フrint先生からこんな推薦状を書いてもらって、アーモスト大学で学ぶことができた新島先生は、今の時代から見てもとても恵まれていたと思います。新島先生の他の手紙においても、フィリップス・アカデミー時代に勉学にいそしむ様子とともに、毎日フrint先生から幾何のクラスの復習を見てもらっていること、物理学の後に植物学を学



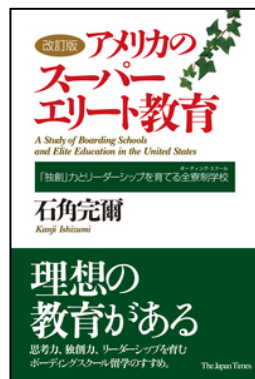
1875 年ころのアーモスト大学キャンパス

びたいと思ったが、教科書を買う費用が手元になく、それをハーディー夫人に伝えることをためらったので、先生の書物を借りて学びを始めたが、やはりその書物を自分で持って学んでみたいとお願いしたというエピソードも書かれています。（新島襄全集10巻70ページ）

新島先生の学びに主体的に、そして積極的に取り組む姿勢とともに、聖書の御言葉に対しての真摯な姿勢、その御言葉に養われながら人格的な成長も見られたことは、長年高校での教育経験のあったフrint先生ですら驚くようなものであったことが伺えます。このことから、日本人初の新島先生の高校留学経験とホームステイ生活は、今でも私たちの見本となるものであるといえるでしょう。さらに言えば、このような体験をした新島先生によって創立された同志社中学校に招き入れられた生徒の皆さんならびに教職員もまた、新島先生と同じように知的好奇心と探究心とをもって新たなことを学ぶことに集中し、聖書の御言葉に対して心を開きながら、神様からの見守りと導き、主イエス・キリストの愛に満たされて、私たちの人格的な成長を育んでいくことの大切さも教えられていると思います。

この10年、国際交流プログラムの充実とともに、中学校ならびに高等学校卒業後、直接海外の学校での高校、大学留学を希望される生徒の皆さんが毎年おられるのですが、アメリカでの高校、大学留学に関心のある方は、以前紹介した本（「アメリカのスーパーエリート教育」石

角完爾 著) にあわせて、下記の本(「あたらしい高校生」山本つぼみ 著)をお読みくだされば、新島先生の体験したコースがどれだけすごいルートだったかが理解できると思います。例えば、アメリカのボーディングスクールの年間費用は学費、寮費を含めて400万円~500万円。教員も家族とともに校内に家が与えられ、先生一人ひとりに教室も備えられ、10名程度の少人数教育を基本にしながら、とても充実した環境で教育が行われています。フィリップス・アカデミーや他のボーディングスクールを訪問したこともあります。キャンパスも自然も豊かでゆったりしていて、とても居心地のよい、歴史と風格を感じさせるレンガ建の建物が点在している学校が多いです。「アメリカのスーパーエリート教育」でもフィリップス・アカデミーが紹介されています。(25、30ページ) 多くの留学生が集まるボーディングスクールの紹介の1つとして紹介され「1865年、同志社の創立者となる新島襄が入学しているが、ここで聖書を学んだことが、新島襄の一生を決定した。新島襄は1866年12月、在学中に洗礼を受け、聖職者としての道を歩むこととなった。同校には新島襄の記念碑※がある。」(105、106ページ)と記載されています。



アメリカ・マサチューセッツにある有名ボーディングスクール
「DEERFIELD ACADEMY (ディアフィールド・アカデミー)」
卒業生はハーバード大学をはじめ一流大学に進学する

この本では「創造力もモラルもない受験エリートが日本を没落に導いている。革新的なアイデアを個人の力で生み出す独創力とリーダーシップ、さらには社会奉仕精神(『noblesse oblige』社会的義務)を兼ね備えた真のエリート=スーパーエリートとはどのような教育から生まれるのか」という問いかけから、ボーディングスクールの魅力を具体例を交えて詳しく調べられています。1セントも政府からの援助を受けずに「理想の教育」をどのように実現しているか知ることができます。さらにボーディングスクールでの教育と比較する形で、日本の高校・大学教育の問題点を2人の方の著作を紹介されながら、指摘されていることにも興味深いものがあります。(はじめに ii~iiiページ)

「教育とは知識を詰め込むことだと考えられ、生徒たちはなんでも丸暗記するのは巧みになったが、論理的思考は不得手で、したがって意志決定力もすっかり弱くなった。…学生たちは、大学生であることのプライドを持たず、いっそう正確には持つことを拒否した。今の日本では、高等教育を受けていることは、少しもエリートたる証にはなっていない」森嶋通夫『なぜ日本は没落するか』(岩波書店)

「エリートとは、一般大衆の不興を買うことを恐れず、憎まれても信念を曲げないような人びとのことで、国家間の利益や思惑が複雑に入りくんだ国際的な駆け引きや、地球規模の資源環境問題といったような、個人の限られた知識や素朴な日常感覚だけでは処理できない大きな問題となれば、それなりの高度の専門知識と特別の訓練を受けた、しかもスケールの大きな人材が必要だが、現在の日本にはこのようなエリート指導者が完全に不在である。」鈴木孝夫『日本人はなぜ英語ができないか』（岩波新書）

6月も後半を迎えたこの1週間も、新島先生と同じように知的好奇心と探究心とをもって学びに取り組むとともに、聖書の御言葉に対して心を開きながら、神様からの見守りと導き、主イエス・キリストの愛に満たされて、私たちの人格的な成長を育んでいきましょう。そして、今週もまた、主イエスの愛を受けた私たちが、周りの友達、身近な人たちへ「隣人愛」を実践することができるように、神様に祈りつつ歩ませていただきますように。

「強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるので、恐れてはならない、おののいてはならない。」

旧約聖書 ヨシュア記 1章9～10節

10 To Susan H. Hardy [L&L]

Andover

October 27, 1866

... I am very well through the tender care of God. I enjoy very much my studies in this term. My eyes are quite well, so that I can study during the day, and in the night, least one hour and half or two. In the beginning of this term I took Romans for my evening study, and read through it a week ago. Mr. Flint interested me very much and explained it for me. Now I am reading first Corinthians. Last Friday Capt. Taylor's wife wrote a letter to me, and told me he will sail to China again and he would like to see me before his voyage. Therefore I wanted to see him very much. But I thought within my heart that I must spend some money for going up and coming back. But in the Saturday morning Mrs. Flint gave me a ticket, and Mr. Hidden presented to me one dollar bill to spend it in Boston. After our morning prayers in the Academy I went to Boston ... then I went to Charlestown to see Capt. Taylor. He was there on board the ship and seemed very glad to see me. Forenoon I stayed there with him, and it was very pleasant to me to spend a few hours with my old acquaintance. Afterwards he took me to Boston to get dinner, gave me his thin overcoat which is very suitable for this season, and bought for me a very nice hat, though I did not tell him about it. After a quarter of five o'clock he came to the depot with me, bought a ticket for me, and said good-by, bursting in tears. O Mrs. Hardy, is it not wonderful that the providence of God has fallen on me, a poor Japanese, so much?

Last Monday M[ontgomery Sears?] told me my trunk had come. Mrs. Hardy! when I opened the trunk I said within my heart: "What shall I do to you?" because you give me so many things as your own boy. Not these things only, but my education, hoping that I might do great good to my native land. I think, though you help me so much, you hope no reward from me, because you know I am poor. Therefore I may say surely that your heavenly reward shall be increased. Please remember the words of the Lord Jesus how He said: "It is more blessed to give than to receive." ... Last Monday evening Mrs. C[handler] died. I think she is sitting now by the right hand of Jesus. A few weeks ago Mrs. Shedd asked to you about my joining the Seminary Church, and she wrote to Mrs. Flint that you are approved of it. If you and Mr. Hardy approve it, I shall join it the next communion. Now I believe Jesus Christ is the Son of God who died for our sins, and we shall be saved through Him. I love Jesus more than anything else. I cast whole self to Him and try to do right before His sight. This is my vow. I will go back to Japan and persevere to turn the people to Jesus from Devil. I determined myself to Jesus so fast that nothing can separate my love from Him. But my flesh is weaker than my spirit, therefore I wish to join church and to unite in Christ, that I may grow more Christlike and I may do great good to my nation for his name's sake. If you approve it, please give me answer in the next week. Please care for yourself and give my love to Mr. Hardy and all your family. I would like to see you sometime. ...

新島先生が書いた

英文手紙に

チャレンジしよう!

<英文手紙 challenge*4>

ハーディー夫人に宛てて

書いた手紙です。

生徒の皆さんも

読んでみましょう!